

2014 年度 自己点検・評価報告書

青森明の星短期大学

■ 目次

●学科、専攻	
現代介護福祉学科、介護福祉専攻	02
子ども学科、保育専攻	03
●教育支援部	
教務グループ	04
教育事業グループ	05
●キャリア・学生支援部	
就職支援グループ	06
学生活動支援グループ	07
●入試広報センター・入試広報課	08
●課	
企画総務課	09
教学就職課	10
(入試広報課)	11
●図書館	12
●明の星学園生涯学習センター	13
●青森明の星短期大学国際交流センター	14

年度	2014年度	点検・評価した部署	現代介護福祉学科、介護福祉専攻
本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 学科統合により各専攻の単位相互履修を説明し、卒業後に4年制大学編入を視野に助言し、福祉専門職の意識を持ってもらう。 2 学生及び既卒者、外部者向けに各種資格取得の対策講座を設け、「介護福祉の総合力がある短大」のイメージの確立を図る。 3 学生の希望に沿った就職活動を支援して行く。 4 教育内容の充実を図り、よりよい教育を目指す。 		
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 卒業後、4年生大学の通信課程3年次編入が可能となったことで、介護福祉士の以外の国家資格である社会福祉士、精神保健福祉士の資格取得の道が開かれた。 2 学生には、「レクリエーションインストラクター」、「認定ピアヘルパー」「情報処理士」「福祉住環境コーディネーター」等の資格取得を奨励した。 また、外部者に対しては、生涯学習センターと連携し「介護職員初任者研修」「介護福祉士国家試験受験対策講座」「介護技術講習会」を実施した。特に、介護技術講習会は6回開催したことから受講生は過去最高となった。 3 チューターにより、学習支援、学生生活支援、就職支援をきめ細やかに行い、就職率100%に向けて取り組んだ。 4 リカレント講習会は定例化したものの参加者が伸びなかったので改善の検討を進めていく。 		
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育内容の充実に努め、介護福祉士は専門職であることの自覚と資質の向上を図る。 2 卒業後の進路として、就職率とともに4年制大学の通信課程3年次編入を通して、幅広い有能な福祉人材の育成を図る。 3 福祉関連資格の取得を奨励し、多様なニーズに対応する人材の育成に努める。 4 卒業後のフォローアップ体制の充実を図るため「リカレント教育」を推進する。 5 生涯学習センターと連携し、「介護職員初任者研修」「介護技術講習会」を実施するとともに「実務者研修」の体制整備を推進する。 		
自己点検評価委員会からの評価	<p>地域向けの講座（一般向け）の充実を検討してほしい。</p>		

年度	2014 年度	点検・評価した部署	保育専攻・子ども学科
本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ①特例制度による講座・科目の開設について ②幼保連携型認定こども園保育要領（仮称）の学習会の実施 ③各種サブ資格の精査及び見直し ④特色ある教育活動の推進 ⑤各校務分掌との緊密な連携の推進 ⑥現場実践への体験的参加としての保育ボランティアの継続 ⑦在学 2 年＋卒業後 5 年程度を視野に入れた人材養成プログラムの検討 ⑧実習規程の細分化及び実習指導内容の見直し・改善 		
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ①次年度「保育士資格取得特例講座」を開講することとした。 ②「認定こども園教育・保育要領」を専攻内の全教員に配布し、各自内容の確認等に努めた。 ③「保育心理士」を 2016 年度から廃止。心理の分野については、「認定ピアヘルパー」と「教育カウンセラー補」の 2 つの資格を取得させることで更なる充実を図ることとした。 ④教育目標の一つである「地域貢献力強化」の具現化策として保育ボランティア以外のボランティアの推進を図ることとした。 ⑤進路・学生指導の内容・方法等の情報を共有することで相互の不足分を補完し合うとともに連携を密に図ることが出来た。 ⑥保育ボランティアの実施により最初の実習への移行がスムーズに行われた。 ⑦最新保育情報の提供を目的とした新卒者を対象とした交流会を開催したが、継続的・体系的には実施出来なかった。 ⑧「実習指導ガイドブック」（仮称）の作成を通し、実習規程の細分化及び実習指導の内容等の見直し・改善を行った。 		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ①生涯学習センターとの連携で、在学 2 年＋卒業後 5 年程度を視野に入れた人材養成プログラムの検討 ②特色ある教育活動の推進（多様なボランティア活動への参加促進、子育て支援に関する取り組みの推進など） ③実習指導ガイドブック（仮称）の内容の精査・完成 ④各校務分掌（部・センター）との連携の強化及び情報の共有化 ⑤授業内容の重複解消や各種サブ資格の統廃合を視野に入れた教育課程全体の見直し・改善 ⑥基礎学力を高めるため外部検定試験の導入（保育英検、漢字検定、国語力検定など） 		
自己点検評価委員会からの評価	<p>新制度に向けた取り組みを検討してほしい。 基礎技能検定について検討してほしい。</p>		

年度	2014 年度	点検・評価した部署	教務グループ
----	---------	-----------	--------

本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ①授業数および試験日の確実な設定 ②補講の設定・確認および実施の周知 ③履修・資格登録の様式等の改善 ④授業評価アンケートの実施・形式変更の情報収集 ⑤学修ポートフォリオの導入 ⑥アクティブ・ラーニング研修会への参加および学内展開 ⑦MOS2013 検定試験実施のための試験官資格登録
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ①規定の授業数の確保および試験日の確保と周知を行った。 ②実習に伴う休講、補いの必要な授業について把握・調整を行い授業担当者及び学生への周知を徹底した。 ③履修システムを一新した。 ④授業評価アンケートの形式変更の情報収集を行った。 ⑤学修ポートフォリオを一部導入（キャリアサポート）、本格稼働に備えた。 ⑥アクティブ・ラーニング研修会への参加および学内研修会での一部紹介を行った。 ⑦MOS2013 検定試験の試験官試験および登録を行った。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ①期末試験を行う場合は、半期 15 回（通年 30 回など）の授業の他に、試験の時間を設定することを徹底する。 ②休講・補講についての混乱が生じないように、確実な確認および周知を行う。 ③履修システムの更なる改善を試みる。 ④授業評価アンケートの形式改善および実施後の開示方法の工夫を行う。 ⑤「フレッシュマンゼミ」「キャリアサポート」他において、学修ポートフォリオの一層の活用を図る。 ⑥アクティブ・ラーニング活用研修会への参加や研修を行う。 ⑦履修指導および授業で啓蒙を行い検定受験者の増加を図る。 ⑧GPA 制度の導入準備を行う。 ⑨学生の出席確認に関する提出書類の簡素化を図る。
自己点検評価委員会からの評価	<p>GPA 制度導入と評価システムの検討。 ポートフォリオの活用を図ってほしい。</p>

2014 年度	点検・評価した部署	教育事業グループ
本年度取り組んだ課題	①中央高校との高大連携の企画と実施 ②助成研究の公募状況等の周知と啓蒙 ③FD・SD 企画と実施 ④教員免許更新講習の企画と運営	
課題への取り組み結果と点検・評価	①中央高校との高大連携の企画について 今年度より実施。 第 1 回：5/8(木)中央高校および本学を卒業した先輩保育士による母校での講話&懇談会（於：青森中央高校） 第 2 回：8/7（木）中央高校生徒の付属幼稚園見学および本学学生を交えた保育ワークショップ（於：本学） 第 3 回：11/27（木）グループ報告会（於：中央高校） あすなろ学校内研究発表会 12/18（木）を本学教員も参観。 今年度の構成に基づき、年度内に双方の担当者の点検・反省を実施し、次年度の計画及び実施を継続予定。 ②助成研究の公募状況等の周知と啓蒙について 本学に適した公募のリストを作成、周知を行い、募集の時期を学内掲示版による周知を実施。その結果、今年度は申請 1 件有り。 ③FD・SD 企画と実施について 学科統合をねらいとした FD 研修会を企画し実施した。 第 1 回：7/4FD 公開授業（実習指導 I） 8/4FD グループシェアリング 第 2 回：11/5～11/13FD 公開授業週間 12/3 指定参観授業のシェアリング（グループ別に実施） 第 3 回：SD 研修、年度内に実施 ④教員免許更新講習について 今年度より、本グループで各講習の当日の運営を行う。	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業の実施について、次年度は介護の分野も含めた講座の計画と実施を検討していく。 ・助成研究の啓蒙については、申請の件数の拡大を課題とし、具体的な取り組みの実現をはかる。 ・FD・SD 研修会については、引き続き FD の取り組みに力を入れ、次年度の企画と実施の充実を図る。 ・FD・SD の経費の予算化を図る。 ・FD・SD の外部研修に計画的に参加していく。 	
自己点検評価委員会からの評価	科研費（特に若手研究）の積極的な申請を促してほしい。 アクティブ・ラーニング等をテーマに FD を行ってほしい。	

年度	2014 年度	点検・評価した部署	就職支援グループ
本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ・チューター中心とした就職支援実施 ・「就職の流れ」ポスター作成 ・進路ガイダンス開催 ・進路指導室レイアウト変更 ・テーブルマナー講座掲示 ・キャリア支援ハンドブック検討 ・東北福祉大編入学 ・月 1 回定例会議実施 		
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業までをチューターが指導できた ・「就職の流れ」を全教員へ配布。チューターの就職指導が可視化された。 ・進路ガイダンスは 9 回実施 ・進路指導室活用率を調査する必要有り ・講座募集は内容検討必要 ・キャリア支援ハンドブックは現在作成中 ・編入説明会参加周知 ・定例会議開催にて情報共有可能となった。 		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・チューターが責任をもって就職支援を行う。 ・進路ガイダンス出席率の低迷 ・進路ガイダンスは専攻別と合同の 2 種で行う。 ・合同進路ガイダンスは就職説明会開催 ・東北福祉大編入学生への支援体制検討 		
自己点検評価委員会からの評価	<p>キャリア支援ハンドブックを活用してほしい。 就職支援講座（各種講座、検定試験）を積極的に進めてほしい。</p>		

年度	2014年度	点検・評価した部署	学生活動支援グループ
----	--------	-----------	------------

本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課外教育・活動、地域貢献事業 2. 学友会 3. 奨学金・学生アメニティー 4. 防災関連 5. 学生相談室
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課外教育・活動、地域貢献事業 <ol style="list-style-type: none"> ①課外教育（各種研修会） <ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュマンゼミ内でのセミナーの内容についての検討が必要。 ・全学研修会での欠席者に対するの課題提示が欠席者減につながった。 ②課外活動・地域貢献事業 <ul style="list-style-type: none"> ・3校時に授業がない学生の清掃活動欠席が目立った。 ・今年度のボランティア活動回数：51回、活動人数：101人、内5割が音楽療法関連。（授業での活動を除く） ③似顔絵コンテスト <ul style="list-style-type: none"> 9名13作品の応募有。入賞3名、入選4名（内1名は入賞者）を選出。 2. 学友会 <ul style="list-style-type: none"> 割とスムーズな活動であったが、学生祭運営に関し細かい反省点あり。サークル活動補助金の活用に問題があった。 3. 奨学金・学生アメニティー <ol style="list-style-type: none"> ①奨学金 <ul style="list-style-type: none"> 日本学生支援機構奨学金：1種2名、2種4名、希望者全員採用。 あけのほし奨学金：別組織（あけのほし奨学金委員会）で審査済み（2015.2.27金） 聖母被昇天修道会奨学金：別組織で審査済。 ②学生アメニティー <ul style="list-style-type: none"> みんなの声に無記名投稿有。 4. 防災関連 <ul style="list-style-type: none"> 役割を明確化し実施。緊急時対応マニュアルの原案も作成。 5. 学生相談室 <ul style="list-style-type: none"> 現在まで、18名が53回に渡り、進路・人間関係・学生生活等で相談。ほぼ全員が解決・改善した。現在は1名が継続で相談中。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課外教育・活動 <ol style="list-style-type: none"> ①課外教育（各種研修会） <ul style="list-style-type: none"> ・来年度のフレッシュマンゼミでの外部講師は「生活安全セミナー」のみとし、空いた時間を他（学生振り返りシステムの指導等）に有効活用する。 ②課外活動・地域貢献事業 <ul style="list-style-type: none"> ・Σ補助金の活用方法に検討が必要。 ③似顔絵コンテスト <ul style="list-style-type: none"> 学生活動支援という視点でコンテストの内容を再検討する。 2. 学友会 <ul style="list-style-type: none"> 学生祭運営に関しての反省点を活かし、よりスムーズな運営を促したい。サークル補助金の有効活用についての検討。 3. 奨学金・学生アメニティー <ol style="list-style-type: none"> ①奨学金受給者に成績不振な学生がいる。自覚を促していきたい。 ②みんなの声の投書はできるだけ記名させたい。 4. 防災関連 <ul style="list-style-type: none"> 雨天時の避難方法についても計画する。
自己点検評価委員会からの評価	危機管理マニュアルの更なる整備。

年度	2014年度	点検・評価した部署	入試広報センター（課）
----	--------	-----------	-------------

本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報活動の見直しと重点化 2. オープンキャンパスの内容の見直し 3. ホームページ等によるメディアの活用
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報活動の見直しと重点化 <ol style="list-style-type: none"> ①高校訪問の重層化 高校訪問を学長による表敬訪問、センター長による訪問、教職員による訪問と重層化し、高校側との情報交換を密に行った。 ②高校訪問の重点化 市内、県内、県外に重点校、重点地域を決め、情報提供や受験生の把握を行った。また、業者主催の説明会（集客数減）の割合を減らし、直接の高校訪問に注力した。【一般1期まで3名増】 増加（青森市+8、下北地区+6、上十三地区+2） 減少（弘南地区-6、三八地区-4、県外-3） 2. オープンキャンパスの内容の見直し 学生による短大や学生生活の紹介を行った結果、高校生や保護者が短大での様子を実感していた。配布グッズも、新たに品目を増やしたところ好評であった。参加者の出願率は前年度65%から今年度81%と上昇した。また、個別の学校見学は2校で、新規にむつ下北地区JRCの訪問があり、受験生の確保に繋がった。 3. ホームページ等によるメディアの活用 <ol style="list-style-type: none"> ①「キャンパスNEWS」及び「明短ブログ」で短大の周知に努めた。ホームページについては、オープンキャンパスへの申込や資料請求の増加へつながり成果が出ている。 ②昨年に引き続きテレビコマーシャルを行ったが、多くの反応があり次年度も継続予定である。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県内高校を中心に高校内説明会、オープンキャンパスへの参加誘導、新情報の案内など連絡を密に取るようにする。また、今年度減少した地域への広報活動を強化する。 2. オープンキャンパスを全学体制で行い、受験生目線にたって、内容の充実を図る。 3. 現HPの更新を図り、見やすく分かりやすい構成にする。また、スマートフォン対応を検討する。 4. 本学主催の「出張オープンキャンパス」や「短大見学会」を企画し、広報の幅を広げていく。
自己点検評価委員会からの評価	<p>ブログをタイムリーに出してほしい。</p> <p>優遇制度（学園関係者、同窓入学等）を検討してほしい。</p>

年度	2014 年度	点検・評価した部署	企画総務課
----	---------	-----------	-------

本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学ポートレートへの参加に伴う教育情報の収集力の向上と学科・他課との連携 ② 私立大学等経常費補助金の概要及び申請上の留意点の共通理解 ③ 業務全般のチェック体制の強化 ④ 福利厚生の情報提供の充実
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年度からスタートした大学ポートレートへの本学の教育情報を、学科・委員会・他課と連携を取りながら、情報を収集して精査し、公表体制を構築したが、100%稼働に至らなかった。また、一部に表現も適切でないものもあった。 ② 学科等からの情報提供や根拠資料の収集によって、申請要件を確認し合い担当者同士でチェックを行った。それによって申請担当者や記載担当者だけではなく、学科を含め学内全体で申請を意識することができた。 ③ 会計業務・非常勤給与計算・官公庁の調査・統計等、業務全般においてダブルチェックを行い、一部チェック体制を強化した。特に、会計業務においては、チェックが機能した。 ④ 例年通り、学内 LAN・チラシなどの配布物で全員に周知した。また、年金等に関しては説明会を開催することはできなかったが、個別に情報提供し助言した。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 公表内容をより適切な情報提供ができるように、今後更に学科・他部署との連携を強化し、プロセスの改善を図る。 ② 補助要件の見誤りや、申請部署と関係部署との認識の違い等が起こらないように、概要などの共通理解を深める。また、一人体制での申請作業にならないよう複数体制で取り組み、補助金獲得を目指す。 ③ 今年度に引き続き課内での情報の共有を行い、さらにチェック体制を強化し、業務の質の向上を図る。 ④ 福利厚生関連の情報提供を、引き続き周知徹底する。また教育環境を見直し、改善に向けて検討する。 ⑤ 学校法人会計基準の知識の向上。
自己点検評価委員会からの評価	<p>経常費補助金の獲得に向けて主導的な役割を担ってほしい。</p>

年度	2014 年度	点検・評価した部署	教学就職課
----	---------	-----------	-------

本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパスプラン導入 2. 委託学生の指導・技専校との調整（継続） 3. 就職における学科との連携
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパスプラン導入により事務作業の効率が良くなった。卒業要件科目、資格・免許の履修登録漏れ確認や単位不足が速やかにわかり学生への登録指導、担当教員へも対応がスムーズになった。 2. 本業務に支障がでないように、技専校との調整をするように努めた。また、委託生の便宜を考慮し、受講記録簿の管理等は委託生自ら行うよう取り組んだ。年度途中の点検を設けることによって概ね良好に推移した。 3. 就職における通常の連携の他、ガイダンスは事務職の視点で、各種データを用いて行った。就職状況は昨年同で経過している。ある程度の成果は上げられたのではないかと思われる。教員によるもの、事務職員によるものまたは外部の方のと、視点が違う形でアプローチすることによって、成果は期待できることから、各組織と連携を深めていきたい。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 申請書類、提出書類について手引きを配付、口頭で説明しているが、記入漏れが多く見られ理解させるのに時間がかかるため、改善を図りたい。 2. 今年度、課題としたことの再点検・再評価を実施する。単年度では結果の有無が難しいところがあるので、引き続き課題とし、対応していく。 3. 今年度同様、課と学生支援グループとの関わりを積極的に行うことを課題としたい。
自己点検評価委員会からの評価	<p>一般企業への就職開拓を積極的に行ってほしい。 就職情報や委託学生についての情報に関して学科と連絡を密にしてほしい。</p>

年度	2014 年度	点検・評価した部署	図書館
----	---------	-----------	-----

本年度取り組んだ課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館運営－図書館利用の促進・広報事業 <ol style="list-style-type: none"> ①図書館ガイダンス ②絵本の読み聞かせ講座 ③図書館であそぼ！ ④読書感想文コンクール ⑤図書館企画展示 2. 図書資料の管理 <ol style="list-style-type: none"> ①蔵書点検、除架、除籍等 ②図書資料の整備 3. 学生の貸し出し図書の延滞対策
課題への取り組み結果と点検・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. ①新生生に対して図書館の利用を促すきっかけとして有効だった。 ②理論と実践を取り入れた内容であったため、学生にとっては実習に役立つ講座として評価が高かった。 ③参加者（園児、保護者）からは好評を得た。 ④応募数が少なかった。 ⑤季節に応じたテーマや実習に役立つ参考図書の企画展示を行ったが、来館者数は少なかった。 2. ①除籍作業は除籍規定に則り効率良く進めている。 ②図書資料は専攻の図書構成の点検を実施し、不足分野の整備を行った。 3. 掲示や教員の協力を得て返却の通知を行ったが、返却には時間がかかった。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ①ガイダンス以外に情報サービス（文献検索等）の講座を開設し、図書館利用の促進を図っていききたい。 ②③④企画・運営（募集方法、講座の開催時期、内容、講師等）について引き続き検討する。また、③の取り組みは、学外利用者への図書館広報活動の一環として講座内容を充実していきたい。 ⑤企画展示の内容と利用者への情報発信を考査する。 2. ①効率化を図る対策を模索する。 ②図書館と専攻との連携の強化を図る。 3. 学生への返却通知方法を工夫する。
自己点検評価委員会からの評価	<p>図書館の活用が活発になるような取り組みをしてほしい。 図書館便り（新着情報等）をより充実させてほしい。</p>

年度	2014 年度	点検・評価した部署	生涯学習センター
----	---------	-----------	----------

本年度取り組んだ課題	<p>1 公開講座及び免許更新講習の充実と拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の増加を目指す ・短大との連携で新規講座を立ち上げる
課題への取り組み結果と点検・評価	<p>1 講座</p> <p>①委託講座（教育カウンセリング養成講座）について受講者は例年並みの人数を確保できたが、既受講者が多かった。講座の主旨や内容についての理解が浸透し、今後も一定の人数が見込まれる。また、免許更新講習の対象となっていることから、夏の講座は定員を上回った。</p> <p>②短大主催講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術講習、免許更新講習 受講者は予想した数をおおむね確保できた。次年度も受講者増が見込まれる。 ・出前講座は申し込みが減少気味。 <p>③センター講座（公開講座）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回の公開講座は、学生を含み、一定数が確保できた。 <p>2 センター事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務担当者の連携が図られ、課題解決がスムーズであった。 ・介護技術講習、免許更新講習に関わる事務システムが整理され、センターの役割が明確になった。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むつ市教育委員会主催の市民大学学生の受け入れることにより他市とのつながりをもつことができた。
次年度への課題	<p>1 各種講座の参加者を増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許更新講習は定員増を図る。介護技術講習は介護福祉専攻との連携の基に実施。公開講座の継続的な実施 <p>2 講座のPR方法や要望のリサーチの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや玄関前掲示では限界がある。受講料を伴う場合はPR方法が限定される。地域、関係機関への周知と徹底 ・新講座を立ち上げるためのニーズのリサーチ（方法）の検討 <p>3 短大との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアヘルパー、教育カウンセラー補の資格所得の事務 ・介護福祉専攻との連携・・・介護福祉士初任者研修の実施 ・保育専攻との連携・・・おもちゃインストラクターの事務 卒業生の参加を視野に「気になる子どもの援助」に関する講座の開設
自己点検評価委員会からの評価	魅力ある講座の開設により一層努めてほしい。

年度	2014 年度	点検・評価した部署	国際交流センター
----	---------	-----------	----------

本年度取り組んだ課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 派遣留学制度の周知・派遣留学生の募集・留学手続き ② 短期留学制度の周知と参加希望者の募集 ③ 他校留学生との交流の場の開拓・周知 (以下④⑤⑥⑦は、青森・長春教育学術文化交流協会事務局としての主な業務) ④ 三役会議の開催：年間計画の確認および計画立案 ⑤ 青森・長春交流協会役員会・年次総会・懇親会（7月）の準備及び開催・会費請求作業 ⑥ 青森・長春交流協会広報紙（第14号）の編集および発行（10月～12月）・会費再請求作業 ⑦ 留学生奨学生を選抜・奨学金受給（3月～6月）
課題への取り組み結果と点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 前期に全学生に対し口頭および掲示で派遣留学制度の説明を行い、参加者の募集を行った。今年度は子ども学科2年生の1名が応募。教授会にて審議後留学決定。諸手続きを行った。 ② オーストラリア・ケアンズの短期留学（2015年3月）の募集を行ったが、留学希望者はなかった。 ③ 県・市の国際交流主催の交流会やボランティア等の情報提供を行ったが、参加者は皆無であった。 ④ 三役会議の企画および実施 ⑤ 総会の企画・運営および会費請求の業務を滞りなく行った。 ⑥ 広報紙の企画・運営および会費再請求について予定通り実施することができた。 ⑦ 留学生奨学生所属大学（青森大学）への説明・面接・支給等を行った。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 派遣留学の説明を入学時・履修説明時・「中国語Ⅰ」履修時に説明を行い、学生の興味・関心を高めたい。 ② 魅力ある語学研修留学先の選定・留学内容及び時期の見直しを行いたい。 ③ 中国留学を終える学生を中心に他校留学生との交流を行いたい。 ④⑤⑥⑦については、今年度同様滞りなく実施したい。
自己点検評価委員会からの評価	姉妹校とのより一層の交流に努めてほしい。